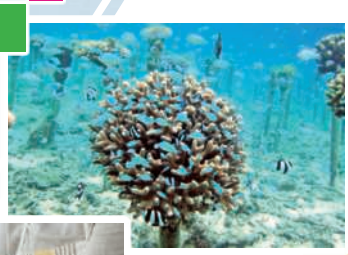
明日のトビラ

パルシステム2030ビジョン
×
SDGs



パルシステムは2030ビジョンでSDGs達成に貢献します

pal*system

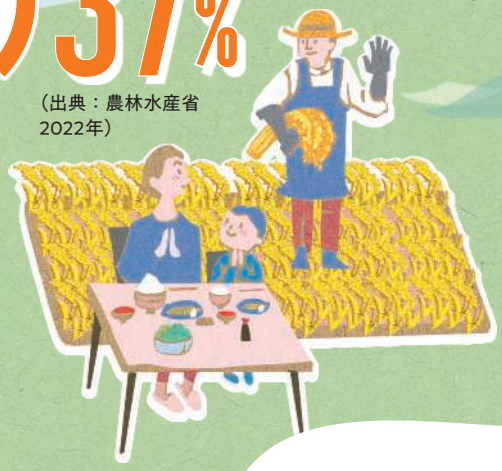
たべる

日本の
食料自給率

37%

（出典：農林水産省
2022年）

もっと自国でまかなえる
ようにしよう！



つくる

世界のサンゴ礁分布面積のうち、
失われた割合

19%

（出典：環境省 国立環境研究所 2016年）

きれいな海を
守りたい！

明日の私たちと地球のために
一人ひとりができること。

半世紀近くにわたり、商品の物語に触れる場と、
一人ひとりの共感から選んでもらうしくみを
組合員とともにつくってきたパルシステム。
SDGs が掲げる「誰一人取り残さない」と同じ
みんながともに心豊かにくらせる
社会づくりをめざしてきました。

2030年に向けて、
「たべる」「つくる」「ささえあう」
「きりかえる」「わかりあう」
という５つの視点を大切にし、
ふだんのくらしの行動で世界のさまざまな課題さえも
超えていこうと挑戦し続けています。

めざすのは、誰もが自分らしくいられて
お互いや生きもの、そして地球にもやさしい世界。
一人ひとりの行動が、そんな明日への扉を開きます。

ささえあう

日本の65歳以上の
高齢者割合

29%

（出典：総務省統計局 2021年）

ひとりの高齢者を支える
生産年齢人口2.1人

安心して
くらせる社会へ！

きりかえる

日本の再エネ比率

18%

（出典：経済産業省資源
エネルギー庁 2022年）

環境を考えた
エネルギーにシフト！

わかりあう

日本のひとり親世帯の貧困率

48%

（出典：厚生労働省 2020年）

みんなの居場所を
増やそう！

「おいしい」「安心だね」の笑顔を、もっと

明日のたべる

「たべる」ことの大切さを伝えあい、安心で心豊かな食を地域に広げます。

地産地消をめざして家畜の飼料も地域でまかなう

輸入飼料に依存せず自給飼料の割合を高めていくため、畜産の産直産地では「飼料用米」を導入。地域の休耕田などで栽培された飼料用米の配合比を上げることで、農業の活性化や自給率の向上に貢献しています。

ウェブ！

手間ひまかけて育てた米を余すことなく「いただきます」

コロナ禍などの影響で米の出荷量が減り、産地では余剰米が発生。生産者がうったえる窮状に組合員がこたえ、産直産地のお米を買い支えました。

ウェブ！

これだけのお米が完売！

次世代の生産者を育て、地域の環境も守る予約登録米

組合員が産地のお米を年間登録し、利用することで、生産者は環境保全型の米作りに安心して励めます。日本人の米離れや米農家の後継者不足といった課題解決もめざしています。

ウェブ！

産地が「元気」だとみんなが幸せに

明日のつくる

地域をともに「つくり」、持続可能な生産と消費を確立します。

産直原料を使った商品づくりで産地をもっと元気にしたい

一般的に輸入原料の使用が多い加工品に、産直原料を積極的に採用。顔の見える商品づくりで作り手の地域における持続可能な生産を支えています。

ウェブ！

産直小麦を使った商品

作り手とつながって産地を応援

牛舎の清掃や牛の乳房の消毒など、牛乳の産地で毎日使うタオル。組合員の自宅にある未使用タオルを産地に届ける活動を35年以上前から続け、牛乳作りと生産者を応援しています。

ウェブ！

コロナ禍をきっかけに産地交流の新しい形を構築

コロナ禍にあっても産地と組合員との交流が途切れないよう、オンラインでの産地交流を実施。新たな「顔の見える関係」をつくっています。

ウェブ！

「どうしよう」を「ほっとする」へ

明日のささえあう

身近な「ささえあい」を通して、誰もがくらしやすい地域社会を広げます。

多様性を受け入れ みんなが活躍できる職場に

障がいにより「働きたくても働くことができない」人の雇用を進める、グループ会社の（株）パルライン。障がい者スタッフを見守る「ジョブサポーター」を独自に設置し、誰もが安心して働ける職場づくりをめざしています。

ムービー！

作業内容をいっしょに確認するジョブサポーター

助成先のひとつ、「子育て支援ステーション ニッセ」

貧困・格差を解消し 支え合える社会をめざす

パルシステム共済連では組合員同士のたすけあいのしくみである CO·OP 共済《たすけあい》の剰余金の一部を活用して、「ささえあい基金」を創設。生活困窮者や子育て支援などに取り組む団体に助成しています。

ウェブ！

誰もが安心してくらせるよう 地域の福祉事業をつくる

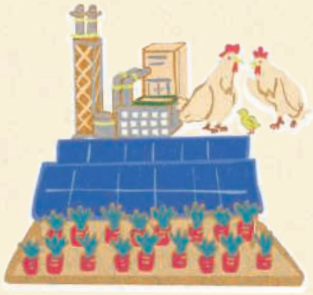
パルシステムの介護福祉事業の知見や子育て層の支え合いの土壌を生かし、高齢者や子ども、障がい者などのあらゆる人たちが安心してくらせるよう、居場所づくりや家事・育児の支援活動などを地域に広げています。

ウェブ！

パルシステム東京が運営する
デイサービス施設で働く技能実習生

「地球にやさしい」
「私に心地よい」を選ぼう

明日の きりかえる



一人ひとりのくらしを「きりかえ」、多様な命を育む環境を広げます。

プラスチック削減に向け 一人ひとりが無理なく3Rを実践

資源循環と廃棄物の削減のため、指定の容器・包装を回収しています。組合員は毎週のお届け時に戻すだけ。くらしのなかで無理なく3R（リデュース・リユース・リサイクル）に参加できます。

ウェブ！

人と地球の未来を想って、サステナブルな商品を開発

プラスチック削減や環境保全、人権に配慮した労働環境など、持続可能性を追求してつくられた『地球の未来にまじめなボディソープ』。容器はリサイクルできる紙パックで、中の石けんには産直原料を使用しています。

ムービー！

畑の上で太陽光発電

再生可能エネルギーも 顔の見える生産者がつくる

再生可能エネルギーの普及をめざし、日本各地の「発電産地」が自然の力を利用した持続可能な電気をつくっています。その多くはもともと米や野菜、鶏肉の生産を担っている産直産地の人々です。

ムービー！

「ありのままで」
みんなが主人公になれる社会へ

明日のわかりあう

「わかりあう」心を広めて、
一人ひとりが大切にされる共生と平和の社会をつくります。

くらしのセーフティネットで 生活困窮者をサポート

ひとり親世帯や失業者など生活に困っている人々に、予備青果などの食品を提供し支援しています。子ども食堂やフードバンクなどの活動団体とも連携し、支援の輪を地域に広げています。

ムービー！

「学びたい」若者が なりたい自分をめざせるように

大学などへの進学をめざす若者が、家庭環境や経済的理由で夢を諦めてしまわないよう、組合員の募金で支える給付型奨学金制度を創設。学生に寄り添う伴走支援団体が生活や進路の相談など、精神面でもサポートします。

ムービー！

学生の社会的活動への参加の機会を提供

一人ひとりの願いを集め 平和な世界をつくっていく

平和を礎にした社会をめざし、戦争の悲惨さや平和の尊さを学び、次世代へつなぐ活動を続けています。ロシア軍のウクライナ侵攻による被害に対し、平和と一日も早い現地の復旧を願う14万人以上の組合員から募金が寄せられました。

ウェブ！

災害支援で連携する団体などに贈呈

©2022ADRA

＼いつの時代も明日のトビラを開いてきました！／

“サステナブル”の歩み

パルシステムは発足当初から、人や環境に配慮した事業を進めてきました。
これまで営んできた持続可能な取り組みを、これからも変わることなく
組合員とともに続けていきます。

1970年代

人にも環境にもやさしい洗剤を

石けん運動

開発当時の
『水ばしょう』

公害が深刻化した1970年代、川や海に流れる水や肌への影響を考え、合成界面活性剤を含まない石けんを広める活動を始めました。

1980年代

「安心」と「ほんもの」を求めて

『こんせん72牛乳』誕生

1986年のリニューアルで初めて「こんせんくん」が登場

「安心して飲める、ほんものの牛乳がほしい」という組合員の声にこたえ、70年代から開発を開始。生乳本来の風味やコクを生かす殺菌法を実現させました。

1990年代

小さな積み重ねが大きな力に

3R※の取り組み

1998年に回収を始めた紙パック。トイレットペーパーやティシュペーパーに生まれ変わり、組合員の元に届けられます。そのほか、リユースびん、カタログ、米袋、たまごパックなどもリユース・リサイクルしています。

※リデュース・リユース・リサイクル

2000年代

みんなが安心してくらせる日まで

被災地の復興支援

自然災害などで被災した方々や産地のくらしの再建のため、地域や団体と連携し、現地での活動や物資の贈呈、組合員へ募金の呼びかけなどを行っています。

子どもたちの未来のために

再生可能エネルギー事業

自然の力を利用してつくる再生可能エネルギーを中心とした電気を届ける、パルシステムでんき。顔の見える「発電産地」の数も、拡大しています。

パルシステムでんき

平和な世界の実現のために

ヒバクシャ国際署名

核兵器のない世界の実現に向け、「被爆者が訴える核兵器廃絶にむけた国際署名」（ヒバクシャ国際署名）の呼びかけを実施。平和首長会議でのとりまとめ後、国連に届けられています。

パルシステム2030ビジョン

「たべる」「つくる」「ささえあう」ともにいきる地域づくり

心豊かなくらしと共生の社会づくりに向けて、2030年までに取り組むべき課題とめざす姿を「パルシステム2030ビジョン」として位置づけました。
グループ全体で組合員をはじめとするあらゆる立場の人たちと手を取り合い、ビジョンの実現に向かって取り組んでいきます。

2022年からの 新しいサステナブルアクション

もっといい明日へ 超えてく

これまでの取り組みの価値を改めて捉え直し、もっと身近で、もっと世界に広がる運動へとアップデートしました。パルシステムは組合員とともに、もっといい明日に向かって行動することを宣言します。

パルシステム生活協同組合連合会
渉外・広報室
〒169-8527 東京都新宿区大久保2-2-6
https://www.pal.or.jp/

2022年7月発行

パルシステムは第1回「ジャパンSDGsアワード」を受賞しました

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

FSC www.fsc.org ミックス 紙｜責任ある森林管理を支えています FSC® C006414